

**GLF FJG  
GLG CLUB**

**DOSHISHA**



# 同志社グリークラブ

## 創立四十九周年定期演奏会

### 賛助出演

アルト独唱 D・ウエンガー  
パイプオルガン伴奏 中瀬古和  
前 笹 敏 子

### 指 揮

寺 本 和 市

1953年 6月27日 土曜日 18・30

同志社 榮 光 館

### 後 援

朝日新聞社 京都支局

### 御 挨拶

本日ここに、創立四十九周年定期演奏会を開催するに当りまして、かくも多数の方々  
御来場を賜りました事を私達一同、心より感謝いたします。

今回の演奏会は半世紀を劃するグリーの歴史の最後の頁の一駒ともなるもので、脈々たる  
伝統の上に立った吾々の今日のハーモニーの中には、数々の想い、映像、そして苦難が  
織り込まれている事と思ひます。又、一方現在の関西合唱界が持っている色々な意味での  
苦悩も必然的に担っている事も否定出来ません。これらの喜びや課題の中に在って吾々は  
外にはアメリカ合唱界に於て、優位を占めるアーモスト大学グリークラブと交流を深め、  
内には神への敬虔な祈りを忘れず、日々厳しい練習を通じて「合唱を生活しよう」と、又  
調和の理想により近ずこうと、努めて居ります。

ささやかな吾々の研究発表で御座居ますが、本日の演奏会を契機として更に新たなる感  
激をもって一同努力を続ける覚悟で居ります。何卒、皆様方の御支援と御鞭撻とを御願ひ  
申し上げます。終りに本演奏会に絶大な御盡力を給りましたウエンガー夫人、中瀬古  
先生、前笹先生を始め、常に暖い心で吾々を見守って下さる先輩の方々に対しまして深く  
感謝いたす次第で御座います。

同志社グリークラブ

## 歌 について

宗教曲 歌おうとして歌ったのではなく、祈りの気持が思わず歌となっ  
て表現された曲。私達は歌うたびにその祈りの清純さに、その信仰の  
叫びの激しさに、深く心うたれます。

ハーモニーを重んじたモンターニの「あわれみ深きイエスよ——  
レクイエム」、単純なテーマによる対位法的手法を用いたバレストウ  
リーナの「勝ちませる君」、又、それらのタイプも兼ねそなえたガベ  
ルト。時代の差こそあれ、そこには共に交なる神に対する祈りが見出  
せます。

モンターニは、二十世紀の始め頃に活躍したと思われる教会音楽の  
大家。バレストリーナは十六世紀の教会音楽の大家。ガベルトはアメ  
リカ・カソリック大学の音楽教授で、ベネディクトゥスは1910年の作  
品です。

アルト・ラプソディー ブラームスはこういった曲をたくさん書いてい  
ます。すべて深い内省的なハーモニーと美しいメロディーをもってい  
ます。これはアルト独唱と男声合唱、木管と絃の伴奏付大合唱曲。

歌詞はゲーテの詩「ハルツへの冬の夜」より成り、深く悩める者が  
冬のあれ野を一人さまよいく苦しき、寂しさをあらわしています。  
曲は先づはげしい、不協和音—増和音(ドミソ#)—に始まって間もな  
くものかなしいアルトのメロディーが加わり先づ冬の野を語り、次に  
自らの悩みに苦しみ116小節目からコーラスが加わって「ひかりもて  
照らせ、胸の闇、おお胸の闇、開けてその眼も百千の泉に、療やせか  
わける唇をば……」と最後のもだえを通して淋しく終ります。今回の  
伴奏は中瀬古和先生に重ねて御無理願ひました。

讃歌 (聖霊讃歌フランツ・シューベルト 作品 154) 31才で世を去った  
歌曲の王シューベルトが、死ぬ一日余りに完成した136小節にわた  
る四重唱と男声四部合唱、プラスバンド伴奏付きの大合唱曲。

歌詞(ドイツ語による)は、聖霊なる神の指導を求めつつ、それへ  
の深い信頼をあらわしています。曲の趣もこの詞にふさわしく壯重で  
あり、あわせて、シューベルト持前の若々しい美しさにみちあふれて  
います。

先般立教グリー・クラブとの交歓発表会のため私達が上京した時、  
この曲を演奏しました。それが恐らく日本初演であろうといわれてお  
ります。今回は中瀬古和先生にパイプ・オルガンで伴奏していただく  
事になりました。

## 歌について

宗教曲 歌おうとして歌ったのではなく、祈りの気持ちが思わず歌となって表現された曲。私達は歌うたびにその祈りの清純さに、その信仰の叫びの激しさに、深く心うたれます。

ハーモニーを重んじたモンターニの「あわれみ深きイエスよ——レタイエム」、単純なテーマによる対位法的手法を用いたパレストリーナの「勝ちませる君」、又、それらのタイプも兼ねそなえたガベルト。時代の差こそあれ、そこには共に父なる神に対する祈りが見出せます。

モンターニは、二十世紀の始め頃に活躍したと思われる教会音楽の大家。パレストリーナは十六世紀の教会音楽の大家。ガベルトはアメリカ・カソリック大学の音楽教授で、ベネディクトゥスは1910年の作品です。

アルト・ラブソディー ブラームスはこういった曲をたくさん書いています。すべて深い内省的なハーモニーと美しいメロディーをもっています。これはアルト独唱と男声合唱、木管と絃の伴奏付大合唱曲。

歌詞はゲーテの詩「ハルツへの冬の夜」より成り、深く悩める者が冬のあれ野を一人さまよいく苦しき、寂しさをあらわしています。曲は先づはげしい、不協和音—増和音(ドミソ#)—に始まって間もなくものかないアルトのメロディーが加わり先づ冬の野を語り、次に自らの悩みに苦しみ116小節目からコーラスが加わって「ひかりもて照らせ、胸の闇、おお胸の闇、開けてその眼も百千の泉に、療やせかわける唇をば……」と最後のもだえを通して淋しく終ります。今回の伴奏は中瀬古和先生に重ねて御無理願いました。

讃歌 (聖霊讃歌フランツ・シューベルト 作品 154) 31才で世を去った歌曲の王シューベルトが、死ぬ一日余りに完成した136小節にわたる四重唱と男声四部合唱、ブラスバンド伴奏付きの大合唱曲。

歌詞(ドイツ語による)は、聖霊なる神の指導を求めつつ、それへの深い信頼をあらわしています。曲の趣もこの詞にふさわしく壯重であり、あわせて、シューベルト持前の若々しい美しさにみちあふれています。

先般立教グリーン・クラブとの交歓発表会のため私達が上京した時、この曲を演奏しました。それが恐らく日本初演であろうといわれています。今回は中瀬古和先生にパイプ・オルガンで伴奏していただく事になりました。

## PROGRAM

### SACRED SONGS

Pie Jesu	...	N. A. Montani
Surrexit Pastor Bouns	...	G. P. da Palestrina
Benedictus	...	A. L. Gabert

### HYMNE

(Op. 154)	...	F. Schubert
-----------	-----	-------------

### RUSSIAN FOLK SONGS

The Twelve Robbers	...	Arr. by S. Jaroff
The Platoff Song		
Heave Ahoy Ho!		
Those Evening Bells		

### Int.

### POPULAR SONGS

We meet again tonight		
Stars of the Summer Night	...	J. B. Woodbury
Listen to the Mocking Bird	...	A. Hawthorne
Märznacht	...	C. Kreutzer
Freie Kunst	...	J. H. Stuntz

### ALTO RHAPSODIE

(Op. 53)	...	J. Brahms
----------	-----	-----------

### NEGRO SPIRITUALS

Couldn't Heah Nobody Pray		
Deep River		
Go down Moses		
Joshua Fit' the Battle of Jerico		



部 員 名 簿

顧問	片 桐 哲	顧問	湯 淺 永 年
幹事	野 村 秀 治	指揮者	寺 本 和 市
渉外	黒 川 正 彦	内 政	河 上 文 久
先 輩	吉 川 悟 一 郎	庶 務	山 縣 達 彦
会 計	朝 倉 盛 正	副指揮者	山 谷 昭

第一テナー

黒川正彦	間淵孝志	中島完治	杉山和夫
平野稔	今藤勇	中路明	大橋慶彦
佐々木正義	佐藤尚武	下岡祥浩	大広瀬清彦
井上雅生	三上貞夫	佐藤春喜	杉藤恭一

第二テナー

二橋英雄	猪田江平	小山欣一	鈴木健三
宇野穰	吉田晴	松居秀忠	服部武雄
堀哲雄	菅野弘	加納信義	円井建一郎
大森文夫	戸田寛	林武之影	日野重一郎
水野裕次	永田秀夫	大志万継	植勝之

バリトン

今川清	室田真奈	野村秀治	鈴木健三
吉川悟一	福島圭司	門田耕一	朝倉盛昭
野村忠	野岡明	佐渡秀昭	澁谷忠和
橋守	足立栄一	後藤幹	原忠夫
小林正義	森泰一	小野寺昭	大島昌茂
佐藤裕之	竹田敬治	武田	八木
山本弘	安井緑		

ベース

朝倉盛正	黒坂洋平	岡本博行	本多省一
河上文久	大橋寛治	山県達雄	饗庭泰弘
明石	二本敏明	森盛	小田泰上
佐々木幹郎	渡辺謙之助	長谷野勇	居野
越智常雄	寒河江正	榎井又治	宇野

同志社精神の実現

片 桐 哲

吾々は、如何なる暗黒の世にも決して絶望してはならない。そこには何か人間のより善きもの、より美しきものが残されているからである。常に神を讃美し、人間性に於けるより高く、より美しきものを目指す事により、吾々はその暗黒をつきやぶって、更に輝かしき人類の未来へ歩を進める事が出来る。

同志社グリークラブが今日、四十九年の伝統を護り、なお隆盛の一途をたどろうとしているものも、実に諸先輩から、うけつがれたこの精神によるものである。

即ち合唱する事によって神を讃美し、その美しきハーモニーを通じて、人間性に於ける諸々の美に対する愛を呼び醒ます事、これこそグリークラブの精神である。願わくば、吾がグリークラブが今後とも同志社教育精神の実を現わし世界に誇る同志社学園の良きシンボルとして健全な発展をとげられん事を祈る。

あたたかさ

清 水 脩

伝統というのは不思議なもので、よほどのことでもなければ崩れるものではない。学生の合唱は、年々、メンバーの何分の一かが変わってゆく。にもかかわらず、やはりうまい処はうまいし、特徴はいつでも同じ面の特徴となっている。

同志社グリークラブといえ、もう随分、歴史の古い合唱団である。その伝統も根が深くどっしりしている。歌いぶりにも、他の合唱団に見られぬ独特のものがある。指揮者は年々変りながら、その独特のものは、いつでも変わらない。それでは、その特徴というのはどんなのかと問われる、一言ではいいにくい。「あたたかさ」とでもいえば当ってようか。もし、当ってなければゆるしていただきたい。いずれにしても、あたたかい音楽ほど誰もがもてているものはないのだから、その意味では、同志社グリークラブの伝統は尊い。

ぼくは男声合唱を理くつ抜きで好きである。もともと学生合唱から出て音楽家になったせいでもある。だから、どこの大学の合唱団でも「仲間」のような気がする。事実、ぼくが大阪外語のグリークラブにいた頃には、同志社グリークラブとは仲間であった。だから、今でも、仲間のような親しさを覚える。

何かといわれても、とり立てて、これ以上書くこともない。なぜなら、毎日顔を合わせて話し合っていたような気がするの、今さら何を書こうというのだと思うのである。御成功をいのる。

MESSAGE

Otis Cary

It is with pleasure that I address myself to the Doshisha University Glee Club as a former member of the Amherst College Glee Club ten years ago. The ties between the two clubs have never been stressed before, but they have always existed, for more than one of the songs that Doshisha has adopted for its use has its origin in Amherst College songs. Amherst men pride themselves on the fact that Amherst is often known as "the singing college" and most college men throughout America know Amherst through her famous song "Lord Jeffrey Amherst." I am sure that with the recent interest in each other's clubs generated by President Cole's visit that the Doshisha Club will gain much inspiration and will continue to enhance its fine record.

Otis Cary, Asst. Professor of Amherst College on leave to Doshisha University

夜はあなたのもの

催眠鎮静剤 (30錠・100錠)

プロバリン錠

日本新薬株式会社

お寝み前の数錠が頑固な不眠を救い、快い眠を誘う。サブ今宵から安らかな眠りも、快い目醒めもあなたのものです。

— あしあと —

この合唱団も草分時代の明治卅六年頃には単に讃美歌を練習する為の小グループに過ぎませんでした。それが明治四十四年片桐哲氏がこれを同志社グリーンクラブと名付け、初代指揮者となり始めて組織化されたのです。その後、この合唱団は宗教本位で聖歌隊的なものにも、又一般の合唱音楽の研究にも努めるようになりました。以来発表会に、演奏旅行等に活躍発展して来ました。その旅行の足跡は日本全土、沖縄、台湾、朝鮮、満洲、支那にまで及んで、本邦に於ける最古の、亦、最も真摯な合唱団の一つとして常に他の団体の先驅を務め、殊に本邦合唱音楽の発祥地たる関西にあって、輝やかなし業績を残しております。

その後、戦争の激化と共に音楽活動もままならず、一時は練習もとだえ勝ちとなりましたが、戦後いち早く復活し今日に到っております。その間、毎年の立教グリーンクラブとの交歓演奏会に、コンクール、放送、発表会に研究と努力を続けて来ています。即ち、戦後より昨年に到るまで、全関西及び全日本の合唱コンクールに九回出場し、第一位四回、第二位四回、第三位一回の成績を収めております。

一年をふりかえり……

—昭和27年—		—昭和28年—	
5月25日	立教グリーンクラブと定期交歓演奏会	1月17日	グリーンクラブ Farewell コンサート
6月21日	関西学院グリーンクラブと親睦会及び野球交歓	19日	アメリカン・スクールサーヴィス
22日	同志社グリーンクラブ讃美禮拜	2月11日	アーモスト大学長コール博士夫妻歓迎会
27日	京都大学男声合唱団と交歓ミーティング	4月14日	同志社文化バレード
7月11日	六甲、神呪寺にて合宿	22日	スタンレー・ジョーンズ氏講演会
25日	中国、九州、四国地方演奏旅行	5月3日	東京男声合唱団演奏会を主催
}	豊岡・倉敷・広島・徳山・宇部・山口・小倉・福岡・長崎・熊本・大分・別府・松山・今治・西条・高松の諸都市巡演	5日	関西大合唱祭
	早稲田・慶応・関学・同志社東西	9日	同志社クラシック・コンサート
	四大学第一回交歓演奏会	12日	マリアン・アンダソンを同志社アーモスト館に迎え歓迎会
8月10日	英国オックスフォード大学チーム歓迎会	15日	京都米軍陸軍病院慰問
9月21日	全国キリスト教音楽会	29日	慶応ワグネル・早稲田グリーンとレセプション 日本青年館にて
23日	合唱コンクール 第二位	30日	立教グリーンクラブと定期交歓演奏会 神宮外苑 日本青年館にて
20~29日	同志社EVE音楽会	31日	同志社グリーンクラブ横浜公演 横浜国立大学グリーンクラブとミーティング
12月17日	アメリカン・ハイスクール X' マス ページェント	6月7日	関西学院グリーンクラブと親睦会
		15日	京都米軍陸軍病院慰問

予 告

同志社グリーンクラブ夏期演奏旅行

- 東北、北海道地方  
仙台、青森、函館、小樽、札幌、旭川、ETC.
- 6月30日より20日間

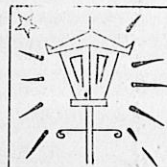
同志社グリーンクラブ送別演奏会

グリーンクラブ創立49年度卒業生のための  
フェアウェル・コンサート

昭和29年1月下旬

同志社 榮光館

沸したコーヒは  
コーヒにあらず  
(キタドリッブ)



CONFECTIONERY  
IZUMIYA



FRESH DAILY  
EVERY VARIETY OF CAKES  
TARTS COOKIES AND CANDIES

歐風銘菓  
クッキーの泉屋

京都市中京区押小路通柳馬場東・電話上③3353番

京・木屋町 三条

株式 小田佐商店

電話本局②0074-5327

アサヒビール  
ミツ矢サイダー

清酒類



Coffee  
トッポット

京・西木屋町四條上ル TEL 2-6256